

## 令和7年度 第4回 産業振興会議 会議録要旨

日 時	令和8年2月6日（金） 18:00～19:00
場 所	宇治市産業会館 多目的ホール
出席委員	白須会長 川勝委員 岸田委員 本永委員 吉田委員
議事要旨	<p><b>議事（1）宇治市産業戦略 第2改訂版（最終案）について</b></p> <p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今回の修正案では産業連関表のデータが除外されているが、前回の戦略策定時には、市内の産業間のお金の流れや市外との関わりを可視化し、製造業支援や商店街支援の根拠となった重要なデータである。</li> <li>● 現在の課題への対応だけでなく、長期的視点で市経済を捉えるために産業連関表のデータは残すべきである。</li> <li>● 観光消費の拡大が市内経済に与える影響などを調査する必要性も考慮し、データの更新も検討してほしい。</li> </ul> <p><u>事務局</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 産業連関表は平成26年に策定された古いデータであるため、今回は一旦外したいと考えている。</li> <li>➢ 今後、新たに策定するかどうか、今回の意見を踏まえて改めて検討したい。</li> </ul> <p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の策定以降、新しい連関表が作られていないのか。</li> </ul> <p><u>事務局</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 作成できていないのが実情であり、何が必要かも含めて作成の是非を再考したい。</li> </ul> <p><u>委員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大きな経済の流れを把握して政策を進めるべきであり、10年前のデータであっても主要な構造は変わっていないと思われる。</li> <li>● 一度削除すると意識から外れてしまう懸念があるため、概要図だけでも残しておくべきである。</li> </ul> <p><u>事務局</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ いただいた意見を踏まえ、参考資料としての掲載も含めて対応を検討する。</li> </ul>

## 議事（２）宇治市産業戦略 第２改訂版の推進について

### 委員

- 来年度以降も本会議で進捗確認を行う際、以前に別の委員からも指摘があった通り、細かな事業の羅列だけでは「結局、宇治市がどう変わったのか」が見えにくい。
- 大きな方向性に対して意見をもらう形にするのが望ましい。他市町村の会議に出席する経験からも、説明が細かすぎるとかえって意見が出にくくなる傾向がある。
- 次回の会議からは、どのような報告を行い、委員からどのような意見を引き出すのかを意識した運営を検討してほしい。

### 事務局

- これまでの３年間は、個別の事業経過をできる限り詳細に伝えるべきだと考えて取り組んできたが、委員の皆様が全体像を把握しにくくなっていた点については配慮が不足していた。
- 次年度以降も事業自体は継続していくが、大きな視点を持って状況を伝えられるよう、資料作りや説明の仕方を工夫し、より活発な意見交換ができる場にしていきたい。

### 委員

- 現在、抹茶ブームで宇治橋通りなども非常に賑わっている。一方で、日本茶業中央会の会議では、抹茶が売れすぎているために「覆いをする」「碾茶炉等で製造する」「石臼等で挽く」といった抹茶の定義を撤廃すべきだという意見が一部の業者から出ている。
- 宇治を含む京都の生産量は全国のおよそ３%であり、定義が緩和されれば本物の抹茶が駆逐されてしまうのではないかと非常に危惧している。京都が反対しても、数で勝る他産地の意向で定義が変わってしまう懸念がある。宇治茶がどうなっていくか心配している。

### 事務局

- 抹茶の定義緩和については以前も話を伺ったことがある。小売業側は収益や流通量を重視することから出てきている話であると思うが、行政としては宇治茶・碾茶の定義をしっかりと守るべきだと考えている。

- 宇治市の宇治茶は手摘みや一番茶しか採らないといった点が付加価値を高めている。なぜ宇治茶が高級なのかの意味をしっかりと伝えて、中央会でも定義が守られるような流れを作っていきたい。

#### 委員

- 自治体としてはどのような形で対外的に発信していくのか。

#### 事務局

- 宇治茶の定義は明確に決まっており、その成り立ちや価値を動画の活用や、あらゆる機会を通じて観光客も含めた広く一般に伝えていく場を作っていく。

#### 委員

- 発信は非常に重要である。例えば米作りも、単なる生産だけでなく景観形成や防災（貯水）、市民の憩いの場としての多面的な役割があるが、そうした価値が十分に伝わっていない。
- お菓子には数百円払う一方で、米が高価だと批判される現状がある。マスコミ等の発信も活用し、農業の多面的な効果をもっと伝えるべきだ。お茶も生産まで5年かかるリスクや高齢化で後継者が育たない課題があり、価値を正しく発信しなければ生産を続ける人がいなくなってしまう。

#### 委員

- 農政に携わってきた経験からも、宇治抹茶は一つの「文化」であり、その定義は絶対に変えてはならないと考える。
- 宇治市が中心となり、茶商とも連携して、地理的表示保護制度（GI）への定義の組み込みなどを府や国へ働きかけていくべきだ。戦略案にある「宇治ブランドの向上」や「情報発信」を具体化する中で、こうした定義を守る動きを実績として出していくことになるのではないか。

#### 委員

- 今後の進捗確認のあり方について、岸田委員の意見に近い内容だが、自分も過去に発言してきた通り、役所はどうしても「これだけの予算を入れた」「これだけの面積ができた」といったインプットやアウトプットの話に終始しやすい。
- 求められているのはアウトカムの部分である。例えば、ものづくり関係で「訪問活動を何回やった（インプット）」「その結果、商品ができた（アウトプット）」という話に留まらず、その結果として宇治の産業規模がどうな

ったのか、製造業の占める割合や実数が増えたのかといった指標が重要である。

- 単年度で追いかけるのは難しいが、そうした形での報告を意識してもらうことで、枝葉末節に入らずに全体のことを議論できるのではないかと。

#### 事務局

- アウトカムについてはこれまでの会議等でも意見をいただいております、「これを行いました、その結果こうなりました」だけで終わるのではなく、最終的にどうなっていくのか、なっているのかということまで意識した形で説明できるよう努力したい。
- すべてをその形で資料化は難しいが、そうした意気込みを持って今後の資料作りや事業に取り組んでいく。

#### 委員

- 毎年度の説明時に、アウトプットの数だけでなく、どのような効果が出てきたのかをできるだけ分かりやすく説明してほしい。

#### 委員

- 産業戦略の推進と進捗管理のためには、事後検証ができるより精緻な分析が必要である。その材料として産業連関表の作成は必須であり、それだけでも足りないと考えている。
- 事後検証のためには、各事業が「一体何のためにやっているのか」という目的の明示を改めて確認する必要がある。自治体の事業では目的が不明確で何で測ればいいのか分からないことが多いが、目的が明示されていれば、客観的なデータや定量的・定性的なアプローチでその達成度を確認できる。
- 成果を測る際、量的な変化だけでなく質的な変化に着眼すべきである。例えば廃業率の上昇についても、単に「ダメ」と捉えるのではなく、それが新陳代謝による活性化なのか、あるいは経営良好ながら事業承継ができず大事な資源を失った「やむを得ない廃業」なのかといった実態（質の内容）を把握することで、支援のアプローチも変わってくる。
- 事業者自身の取り組みや努力、その変化に関する情報が不足していると感じる。本来、事業者がビジネスとして自ら取り組むべきところを、リソース不足でできない部分を行政がサポートするのが本来の姿であり、手取り足取りの支援はかえって新陳代謝を阻害しかねない。

- 事業者が脱炭素化、デジタル化、働き方の変更、情報発信の仕方の変更などにどう取り組んでいるのか、その現場レベルの変化に敏感になる必要がある。こうした実態の情報があれば、会議としてもより適切なアドバイスが可能になる。

#### 事務局

- 事業を進める中で、事業の目的は大事であると認識しているが、事業に追われて見失ってしまう側面もある。目的をしっかり把握しブレずに進めること自体が本来あるべき姿であり、次年度以降、そこもしっかり踏まえて取り組んでいきたい。
- 事業者の取り組み状況の把握については、ニーズは聞いているものの、詳細な状況まで全ては聞けていない部分がある。対面で接する中で事業者の取り組みや日頃の状況を把握することに心がけ、真に必要なニーズや後押しできる支援策が何なのかを考えて事業を展開していきたい。

#### 会長総括

- 各委員からの指摘を踏まえ、宇治市には次年度以降の戦略を推進してほしい。特に、振興会議において委員が議論しやすいような情報を提供することが、次年度の戦略推進につながるため、この点に留意いただきたい。
- 事業の目的の明確化や、成果を分かりやすく示すことについては指摘の通りである。戦略の23ページにある「産業における課題」に、連携の話や広域機関の活用についても記載されているので、庁内も含めた横の連携をうまく図りながら推進してほしい。
- 行政出身の立場からすると施策の実現に意識がいきがちだが、やはり主役は事業者である。やる気のある事業者がより一層活性化し、事業をやりたい方が参加できるような環境づくりを念頭に置き、それらをサポートしていく観点から進めていただきたい。

#### 事務局

- 議会への最終案の説明を経て、令和8年3月に「宇治市産業戦略 第2改訂版」として策定する予定である。
- 本日いただいた意見の反映や、議会等からの意見、また3月までに公表される最新データの反映に伴う最終案からの修正等については、会長と調整の上で進めていきたい。